

文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創
2022 年度採択研究代表者

2022 年度
年次報告書

金 惠璘

東京大学 大学院人文社会系研究科
特任助教

良い集合的決定の心理・インタラクション基盤の究明

研究成果の概要

SNS を通じた社会の分断現象について、大型集団実験を通じてインタラクションによる社会情報の拡散がウェブ上での連鎖を形成する基礎メカニズムを解明することを目標にして研究している。そのために、情報カスケードに関する実験のパラダイム (Jayeles et al., 2017) を政治的なインプリケーションをもつ課題に拡張し、欧米でのパイロット実験及び実験準備を行った。1,200 人規模の一般人サンプルを対象とした日本でのウェブ実験をもとにプロトコルを改善したうえで、「2020 年のアメリカの COVID-19 による死亡者の数は?」、「2021 年のアメリカのヒスパニック系による凶悪犯罪件数は?」などの推定課題を、クラウドソーシングサイト Prolific から募集したアメリカ人参加者に課すパイロット実験を実施した。現在、これらの実験データの解析とともに、正解を答えるボット、保守的なバイアスを持つボット、リベラルなバイアスを持つボットなど、様々なボットを参加者の回答系列に投入することで、ボットの影響が人々の判断にどのように作用するかを検討する国際比較実験の準備を進めている。

本年度は国内学会などでの研究発表に努め、若手口頭発表賞を受賞した。また、東京大学にて日本の若手研究者と共に意思決定と累積的文化進化をテーマにしたワークショップを開催し、個体と集団のインタラクション研究およびそのモデル研究について意見交換を行った。